



# わっしょい!

いちのせき  
協働ニュース

2015年1月

vol.4



藤沢町  
住民自治協議会を  
紹介します!

## 藤沢町住民自治協議会

会長 千田 博

問い合わせ先

電話:0191-63-2111 (藤沢支所地域振興課)

### 11月6日地域協働体設立

昨年5月に設立した準備会議では、週1回のチーム会議、3回の準備会議を開催し、11月6日(木)に地域協働体を設立しました。

これまで、藤沢町自治会協議会が核となり地域づくりを推進し、今年設立40周年という節目の年を迎えます。この度、藤沢地域内19の各種団体を特別会員に加え、藤沢町住民自治協議会としてスタートしました。

藤沢地域では、43の全自治会によるミニ計画、地域内8地区協議会による地域づくり計画、そして藤沢地域全体の地域づくり計画という3層による計画を今年4月までに策定しており、これらの計画をベースに住民主体の藤沢型協働のまちづくりを展開し、「人と人とが結び合い、絆あふれる藤沢」の具現化を目指していきます。

### 地域協働推進員、地域協働支援員の紹介

昨年6月から藤沢公民館で藤沢地域の地域づくりを支援している2人を紹介します。地域協働推進員の伊勢徳郎さんは、生まれも育ちも地元藤沢出身です。郷土愛の溢れる伊勢さんは、これからも地域の皆さんの「縁の下の力持ち、よき相談者」としての活躍が期待されています。

また、地域協働支援員の佐藤大輔さんは、市民活動センターの藤沢地域の担当です。藤沢地域の協働体設立に向けた準備などを支援していただきました。

#### 【伊勢さんからの一言】

自分は一市民という思いで取り組んでいます。郷土史やお祭り、食べることが好きなのでさそってください。よろしくお願いします。

#### 【佐藤さんからの一言】

地域の皆さんの「こんな地域にしたい」という想いを形にできるようお手伝いさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。



### 廃校舎利活用先進地を視察

藤沢町自治会協議会では、10月19、20日に廃校舎利活用の先進地事例として、宮城県石巻市網地島にある網小医院、南三陸町にあるさんさん館を視察しました。特に網小医院は、廃校になった小学校校舎を活用し、診療所、デイサービスセンター、高齢者住宅として活用されているなど、有意義な研修となりました。その受け皿となった民間病院と地元住民との交流から、現在の形になったということで、コミュニティの重要性、可能性を再認識させられた研修となりました。



平成27年4月

# 市民センターがスタート!

平成27年4月から、全ての市立公民館が市民センターに変わります。

公民館の市民センターへの移行は、これまで地域の生涯学習の拠点としての公民館の機能に、地域づくりの拠点としての機能を加えることで、生涯学習に係る学びと地域づくりを一体化し、地域の特性を活かした地域づくりを進めていくために行うものです。

また、市民センターは、地域の特性を活かした地域づくりの取組みを継続的に行うための拠点となる施設として、これまで以上に地域がより使いやすく、多様な活用ができる施設になります。

## ■市民センターの名称

公民館の名称 (移行前の名称)	市民センターの名称 (移行後の名称)
一関市立 一関公民館	一関市 一関市民センター
一関市立 山目公民館	一関市 山目市民センター
一関市立 中里公民館	一関市 中里市民センター
一関市立 狐禅寺公民館	一関市 狐禅寺市民センター
一関市立 厳美公民館	一関市 厳美市民センター
一関市立 萩荘公民館	一関市 萩荘市民センター
一関市立 舞川公民館	一関市 舞川市民センター
一関市立 弥栄公民館	一関市 弥栄市民センター
一関市立 永井公民館	一関市 永井市民センター
一関市立 涌津公民館	一関市 涌津市民センター
一関市立 油島公民館	一関市 油島市民センター
一関市立 花泉公民館	一関市 花泉市民センター
一関市立 老松公民館	一関市 老松市民センター
一関市立 日形公民館	一関市 日形市民センター
一関市立 金沢公民館	一関市 金沢市民センター
一関市立 大原公民館	一関市 大原市民センター
一関市立 摺沢公民館	一関市 摺沢市民センター
一関市立 興田公民館	一関市 興田市民センター
一関市立 猿沢公民館	一関市 猿沢市民センター
一関市立 渋民公民館	一関市 渋民市民センター
一関市立 曾慶公民館	一関市 曾慶市民センター
一関市立 千厩公民館	一関市 千厩市民センター
一関市立 小梨公民館	一関市 小梨市民センター
一関市立 奥玉公民館	一関市 奥玉市民センター
一関市立 磐清水公民館	一関市 磐清水市民センター
一関市立 東山公民館	一関市 東山市民センター
一関市立 田河津公民館	一関市 田河津市民センター
一関市立 松川公民館	一関市 松川市民センター
一関市立 室根公民館	一関市 室根市民センター
一関市立 川崎公民館	一関市 川崎市民センター
一関市立 藤沢公民館	一関市 藤沢市民センター

## 市民センター化で変わること(主な内容)

- 市立公民館の名称が「一関市〇〇市民センター」に変わります。
- 市民センターでは、今まで公民館で行っていた生涯学習などの事業に加えて、地域づくり活動を支援します。
- 公民館では制約のあった社会教育には関係のない営利目的の利用が緩和されます。
- 施設の所管が、教育委員会から市長部局(各支所と平成27年4月に新設する「まちづくり推進部」)に変わります。

一関市立〇〇公民館

一関市〇〇市民センター

## 市民センターは指定管理者による管理ができる施設です

市民センターを活用した地域づくりを支援するための方法の一つとして、市民センターは、地域による指定管理ができる施設になります。

市民センターを指定管理とする場合には、平成28年4月以降、指定管理者となる地域協働体の体制が整った後に、希望するところから市とあらかじめ協議のうえ進めます。

※平成28年4月から全ての市民センターが一斉に指定管理になるものではありません。

## ■公民館分館の取扱い

公民館分館は、市民センターの分館(サブセンター)に変わります。

公民館の名称 (移行前名称)	分館の名称 (移行前名称)	移行後の施設名称
一関市立 一関公民館	関が丘分館	一関市 一関市民センター関が丘分館
	滝沢分館	一関市 一関市民センター滝沢分館
	真柴分館	一関市 一関市民センター真柴分館
一関市立 山目公民館	赤荻分館	一関市 山目市民センター赤荻分館
	笹谷分館	一関市 山目市民センター笹谷分館
一関市立 厳美公民館	山谷分館	一関市 厳美市民センター山谷分館
	達古袋分館	一関市 厳美市民センター達古袋分館
一関市立 萩荘公民館	市野々分館	一関市 萩荘市民センター市野々分館
一関市立 弥栄公民館	平沢分館	一関市 弥栄市民センター平沢分館
一関市立 小梨公民館	清田分館	一関市 小梨市民センター清田分館
一関市立 藤沢公民館	黄海分館	一関市 藤沢市民センター黄海分館

※公民館分館として、本寺小学校内と舞川小学校内にそれぞれ位置づけしていた、厳美公民館本寺分館と舞川公民館舞草分館の2つの分館は、利用の実績がないことから廃止します。



# 市民センター Q & A

**Q** 市民センターにするメリットはなんですか？

**A** 公民館の市民センターへの移行は、生涯学習に関係する学びと地域づくりを一体化し、地域の特性を活かした地域づくりを進めるために行いますので、市民のみなさんの創意工夫により、使いやすい形で施設の活用ができます。

**Q** 公民館の役割と市民センターの役割に違いはありますか？

**A** 現在、公民館が行っている事業と事務は、市民センターが引き続き行うほか、市民センターでは一関市地域協働推進計画（平成26年3月策定）に基づいて、地域づくりに関する支援、地域協働体の活動支援及び地域の人材育成などの地域づくりに関する事務を新たに行いますので、その役割は拡大することとなります。

**Q** 公民館のままでも良いのではないのでしょうか？

**A** 公民館は、社会教育法上、営利に利用するとき内容によっては施設利用の制約がありますが、市民センターにすることで、その制約が緩和されます。これにより、例えば喫茶コーナーや産直、特産品販売など、地域の交流の輪を広げるための多目的な施設の活用ができるようになります。

**Q** 公民館が市民センターになったときの職員体制はどうなりますか？

**A** 市民センターへの移行時点（平成27年4月）では、市が直接運営する施設です。市民センターの職員については、現在、公民館に配置している人数を基本に、引き続き市の職員を配置します。

**Q** 市民センターの利用時間や使用料、申請方法はどちらになりますか？

**A** 市民センター移行後の利用時間や使用料は、現在の公民館の基準と同じです。使用料の減免についても今まで使用料が減免となっていた団体については、これまでと同じ取扱いとなります。また、施設の利用申請の方法も変わりはありません。

**Q** 今まで公民館が行っていた事業はどうなりますか？

**A** 市民センターでは、現在、公民館が行っている社会教育事業や生涯学習事業については、市民センター事業として引き続き行います。

市では、市民センターに関する説明職員を派遣します。説明を希望するときは、協働推進課または各支所地域振興課へご連絡ください。

## 各地域の協働の取り組み



### たこコン実行委員会（東山町田河津地区）

実行委員長：高橋 真実

問い合わせ先  
電話：0191-47-2113  
（東山支所地域振興課）



たこコン参加者

#### 地域づくりの基本は婚活！

田河津地区では、地域協働体の前身として「田河津のこれからを語る会」を開き、田河津地区の地域協働体のあり方など、各年代の方が集まり話し合いを行いました。

その中で、「地域に元気がないのは子供が少ないから、子供が多ければ地域は元気になる」と少子化が大きく取り上げられ、田河津地区の子育て世代が中心となって婚活事業に取り組むことになりました。

#### 試行錯誤を繰り返して

婚活事業とは言っても、その目的として掲げたのは「地域の絆を強くする」、「旧田河津小学校跡地の活用」など、地域に根ざした事業にすることでした。

通常は婚活のみを目的とした事業がほとんどで、参考に出来る類似事業も見つからず、手探り状態で事業を作り上げていきました。

始めはなかなか人が集まらず、開催すら危ぶまれる状況でしたが、終えてみると多くの参加があり、又、地域からは大きな反響をいただきました。

#### 強く結ばれた地域の絆

実行委員会には20代～50代の男女12名が集まり事業を行いました。会場の旧田河津小学校跡地の環境整備など、自主的に支援して下さった方もたくさんいました。

スタッフだけではなく、この事業がきっかけで強まった地域の絆を大切に、田河津らしい地域づくりを目指したいと思っています。



# いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信によりアイデアと出会いの機会を創ります

前号は、地域づくりの背景についてお話ししましたが、今号は、いま地域に何が起きているのか?について、ほんの少しだけ。

## 一関市は限界集落ではない!

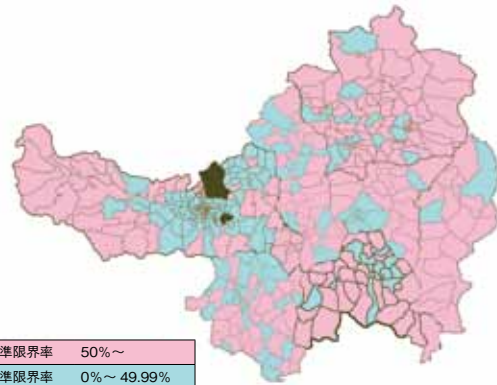
よく地域のみなさんとお話しをしていると、「おらは限界集落だから」という言葉を聞きます。集落の高齢化が進み、見渡すと高齢者が多いと感じて、そんな言葉が出てくるのでしょうか。限界集落とは、なんとも悲しさを連想させる言葉ですね。

限界集落とは、集落人口のうち65歳以上の方が50%以上のことを言います。果たして、一関市には限界集落があるのか?と行政区ごとの高齢化率を算出してみると、該当する行政区が2つと高齢化率が高いとは断言できるものではありません。(※1)しかし、55歳以上の方が50%以上ある場合を準限界率(準高齢化)と言いますが、準高齢化率を算出してみると208行政区が該当します。一関市は451行政区あるので、約半分の行政区が準高齢化であるということが分かります。

高齢者が多くなっているのは、もう分かったという声が聞こえてきそうですので、参考までに一関市全体での世代別データを用意しました。14歳以下人口が

12%、若年世代人口が23%と65歳以上人口より多いことが見てとれますので、人口バランスが決して悪いということではありません。

これからの地域づくりを進めていくためには、自分の地域の世帯状況や人口構成比率を意識することが大事です。目に見える課題だけではなく、本当にしなければいけないことは何かを考える素材になります。

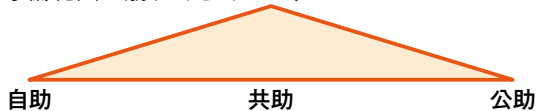


(単位:人)平成26年3月31日現在

人口合計	65歳以上合計	限界率(高齢化率)	55歳以上合計	準限界率(準高齢化率)	20~44歳合計	若年世代率	14才以下合計	少子率
125,014	40,816	32.65%	59,153	47.32%	28,784	23.02%	15,007	12.00%

## 地域を支えるバランスの乱れ

地域づくりの仕組みの話で、自助・共助・公助という言葉が出てきます。図にしてみると地域を支える主体の守備範囲を目で見ることができそうですが、いまは、その守備範囲が崩れてきています。



これまで地域は、結で支えてきました。しかし、時代の変化(生活サイクルの変化)とともにニーズが多様化し、結で支えてきたものが支えきれなくなっているのです。地域の集まりの参加率が低いこと、地域の役のなり手不足が代表例として挙げられるでしょう。また、少子高齢化による一集落単位で地域運営が支えきれなくなっています。近隣集落から選手の貸し借りを行って参加する地区民運動会が代表例とし

て挙げられるでしょう。今から数十年前の方が多かった時代では、このようなことはなかったはずです。

行政も同じように、市全体を支えようとしても、地域と同じように、時代の変化(生活サイクルの変化)とともにニーズが多様化し、支えきれなくなっているのです。行政は平等の原則により、何か行おうとすれば、広く多くの人の理解が必要で、地域から何か課題解決の提案がされても様々な対応ができません。故に前例踏襲などと言われるかもしれませんが、近年は、合併して職員減、財政難も叫ばれ、地域のニーズに応えられない状況にあります。

毎日の光景は、普通です。しかし、私たちが生活する場を見渡してみると、ちょっと前と違い、できることがだんだんとできなくなっているのです。だから今、地域づくりをしていくのです。では、どのような地域づくりをしていくのかは、次号に続きます。

※1 住民基本台帳に基づいて算出しているため自治会単位とのデータとは異なります。また、高齢者福祉施設は省いています。

ちいき 地域 そだて ひと 人 そだて 地域づくりをサポートしています <http://www.center-i.org/>

いちのせき市民活動センター

一関市大町4-29 なのはなプラザ4階  
TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

いちのせき市民活動センターせんまやサテライト

一関市千厩町千厩字町149  
TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736